

今日は1学期の終業式。全校集会や儀式での私の楽しみは、校歌と全校の歌。子どもたちの歌声と歌っている時の生き生きした表情が好き▼教室では、一人ひとりに通知票が手渡され担任の先生から素敵な言葉がかけられる。「子どもと正対する」大切な時間。その後1学期最後の学級だよりが配られ、担任の先生が読まれる▼阿下喜小学校の学級だよりには①子どもたちに向けて書かれていること②子どもの事実（書いたもの、作品、姿）が多く紹介されていること③担任の人間性が垣間見えること この3点がおよそ共通している▼量ではない、質の問題である。子どもたちと一緒に過ごしてきたからこそ伝えられるもの「子どもの事実」と先生方の「人間性」が凝縮されている学級だよりは、子どもたちに向けられたラブレター、子どもたちへの愛にあふれている▼昨日は、6年生の教室をのぞいてみると、黒板いっぱい自分たちががんばってきたことが書かれていた。多く見かけた枕詞は「自分たちで」。リーダーとしての自覚と意欲がうかがえる。数々の行動を「自分たちで」認め合えた成果が、「白い黒板」である▼子どもは、未完の完結を繰り返しながら成長する。竹でいえば節。節目節目に自分たちの「現在地」を確かめ、未来の成長につなげる。明日からの夏休みを素敵な2学期につなげてほしい。「生きて」「元気に」「楽しく」夏休み最高！